

「税」について

北中学校 3年 松井 雛子

「税」と聞いて私の頭に浮かんだもの、それは年貢でした。日本の農民は、年貢を納めていました。取れ高の半分を納め、半分が手元に残り、それで生活していくのです。もしも、私が1万円の収入を得て、その内の5千円が税金として持っていかれてしまったら…と考えると私は耐えられないと思います。しかも、年貢は自分に返ってくるのではなく、自分とは関係のないことに使われるのです。でも今は、昔と違い税の使い道も変わり、私たちのやりたいことを後押ししてくれるのです。

私達、中学生にとって最も身近な税金は、消費税です。私が、真っ先に思いついたのも消費税でした。お小遣い2千円の私は、年収の2万4千円で買い物をして、すべて消費税を払うとしても、払う税金は千2百円です。私が払う税金は、少しですが年月がたてばかなりの金額になります。それをみんなで納めれば「ちりも積もれば山となる。」そして、その税金が巡り巡っていろいろな形で人の役に立っているのです。先日、病院に行きました。そこでいつも通りに受付で保険証を提出し、確認してもらいました。いつも私はここまでしかやりません。でも今回、会計までする機会がありました。その時、会計窓口のかたに「お会計はありません。」と、言われました。「これってどうして？」と不思議に思いましたが、その時の疑問は、そのままになってしまいました。学校でけがをした時、先生に「まだ医療費は無料なのだから、病院にかかったら」と言われ、病院での出来事を思い出しました。「これはどういうことなんだろう。」調べてみて「あっ、これが税の使われ方なんだ。」と実感しました。他にも道路を作ったり公園を作ったりといろいろなことに使われていることが分かりました。毎日勉強をしている校舎、授業に必要な教科書なども、私たちが支払う「税金」でした。私は今まで税金をこんなに身近に感じたことはなかったけれど、こういうところで、私たちを支えてくれていたことに驚きました。今は、まだ税金を納める立場ではありません。今の私たちにできることは、税金によって作られた学校で、しっかりと学ぶことだと思います。そして、働き手となり、きちんと納税の義務を果し、これからの未来を担っていけるようになりたいと思います。